

## マーケット概況（2022年11月）

11月の債券相場は、FRBの利上げペースの加速懸念を背景に売られて始まった。1日の10年債入札は無難な結果となったが、前月末にかけて超長期ゾーンが急速に買われた反動や、パウエルFRB議長が2日の米国FOMC後の会見で金融引き締め長期化を示唆したことから、4日に債券先物12月限は148円24銭まで下落し、8日には20年182回債の利回りは10月26日以来となる1.195%まで上昇した。しかし、9日の30年債入札が順調な結果となると買い戻され、10日の米国CPIの結果が予想外の伸び鈍化を示したことから米国長期金利が急低下すると、11日に10年368回債の利回りは0.235%まで低下した。高値圏で行われた17日の20年債入札を無難に通過すると、20年182回債の利回りは18日に10月11日以来の1.020%まで低下したが、その後は高値警戒感から債券相場は超長期ゾーン中心に伸び悩む展開となった。その後、中国の新型コロナウイルスの感染拡大を背景とした景気減速懸念から債券先物12月限は持ち直す場面があったが、25日の東京都都区部消費者物価指数が1982年4月以来約40年ぶりの伸び率となると、債券相場は軟調に推移し、10年368回債は0.250%、20年182回債は1.130%となるなど全年限で前月末比利回りを上昇させて今月の取引を終えた。

### <短国市場>

3Mは担保需要一巡から金利上昇が意識され、月初の入札は-0.10%台でスタートしたが、-0.10%~-0.11%台での投資家需要は底堅く、セカンダリー市場においては-0.12%~-0.13%台で推移した。25日入札の3MTDB1123回債入札では、想定よりも強めの結果となったことから、入札後は-0.300%まで金利低下し取引されたが、その後は-0.200%まで戻し取引を終えた。6MTDB1119回債は最高落札利回りが-0.1007%と低調だったが、落札不明額が多かったことを受けて、セカンダリー市場では売り物が出難く-0.12%台半ばまで金利低下した。1YTDB1121回債は入札後の店頭需要が伸びず、一時最高落札利回り割れの-0.092%まで売られたが、月末にかけて-0.110%まで戻し取引を終えた。

### <一般債市場>

10年地方債は前月比同水準の国債カーブ+20.0bp、5年地方債は前月比3.0bpワイド化し同+12.0bpで条件決定した。10年債は実勢水準と比較しタイトだったことから消化に時間を要するものもあった。18日の10年横浜市は月内先行銘柄にとらわれず5.0bpワイド化し同+25.0bpで条件決定した。既発債は、慎重な運用姿勢が継続し長期超長期ゾーンへの警戒感は払拭し難かった。社債は、例年11月は中間決算発表後に起債が本格化するが、厳しい起債環境の中、発行額は4,796億円と前年同月比2,245億円減少した。SDGs債関連では、グリーンボンド等ラベル付きの起債が2,634億円と全体の50%を超え、マルハニチロは国内初のブルーボンドを起債した。

### ◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#368	0.245(1日)	0.235(11日)	0.250(4日)	0.250(30日)
#367	0.240(1日)	0.225(17日)	0.240(1日)	0.235(30日)
#357	0.195(1日)	0.130(16日)	0.230(4日)	0.215(30日)
#154(5Y)	0.075(1日)	0.045(11日)	0.110(29日)	0.110(30日)
#182(20Y)	1.050(1日)	1.020(18日)	1.195(8日)	1.130(30日)
#1112-#1119 TDB(6M)	-0.108(9日)	-0.125(9日)	-0.104(9日)	-0.124(9日)
#1117-#1123 TDB(3M)	-0.125(4日)	-0.300(25日)	-0.095(11日)	-0.200(25日)